

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

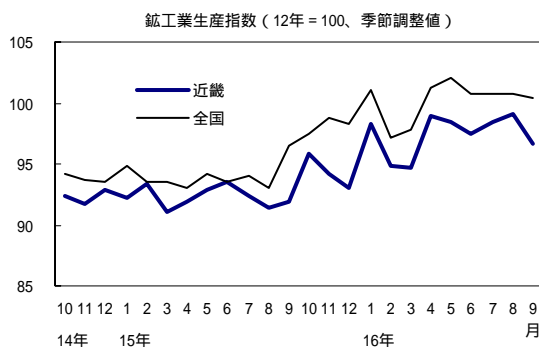
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成16年8月)	今回(平成16年11月)	
鉱工業生産	増加	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	増加	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、ガスタービンなどが増加したものの、前期増加した半導体製造装置や機械プレスなどが減少したことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。化学は、フェノールが減少したものの、8月に合成洗剤が大きく伸びたこともあり、期を通じてみるとおおむね横ばいとなっている。電気機械は、猛暑の影響でエアコンが増加し、冷蔵庫にも買い換え需要が出たことから、6四半期連続の増加となっている。食料品・たばこは、酒類は増加したものの、その他の品目が全般に減少したことから、3四半期ぶりの減少となっている。電子部品・デバイス、携帯電話・パソコン向けのアクティブ型液晶素子は好調だが、固定コンデンサなどが減少したため、2四半期連続で減少している。



(備考) 平成16年9月の近畿は速報値。

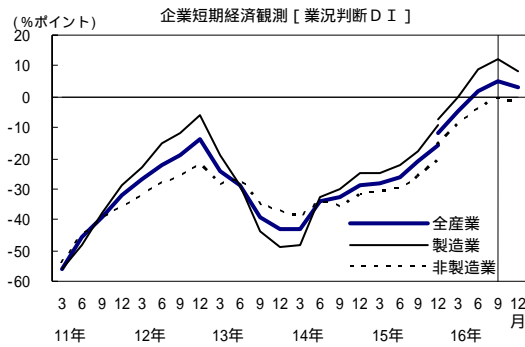
### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	15.0	5.0	0.7	0.2	1.8
化学	12.8	3.1	0.1	0.4	3.6
電気機械	10.1	3.6	5.4	2.4	5.9
食料品・たばこ	8.1	1.0	2.0	2.1	21.2
電子部品・デバイス	7.9	1.6	1.7	5.1	0.7
鉱工業	100.0	2.5	0.3	1.5	3.1

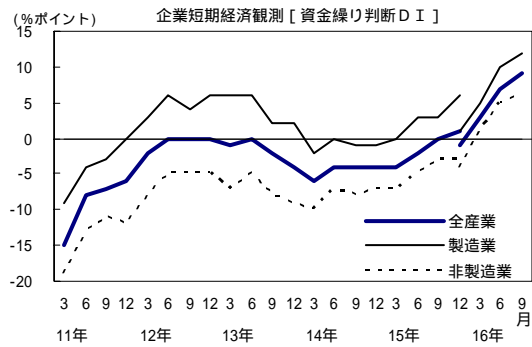
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

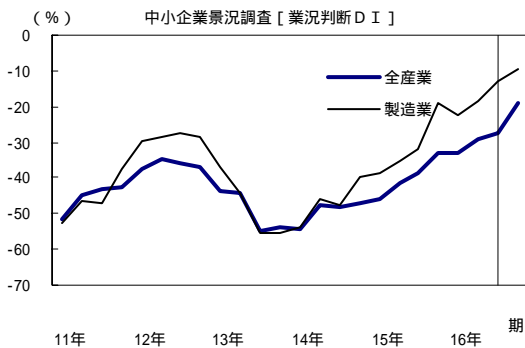
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。  
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「台風、中越地震と大きな被害が出ている地域があるが、当社の取引先も被害を受けている。また、家庭用商品の落ち込みが激しいが、業務用商品が伸びていることでカバーしている(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

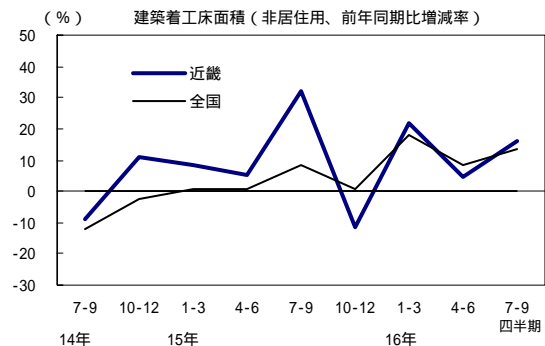
(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	3.2	7.6(0.5)
製造業	13.4	15.3(0.7)
非製造業	3.4	1.6(0.4)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

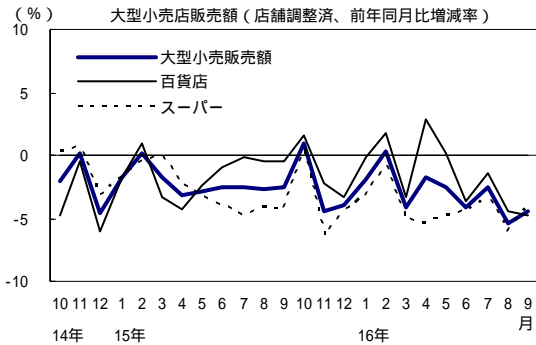
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月はクリアランスセールや日傘、サングラス等の季節商品は好調だったものの、衣料品が全般に振るわず、前年を下回った。8月は婦人・子供服等が猛暑の影響で秋物商品の動きが鈍く、中元ギフトの早期受注の反動が出たため、飲食料品も不調となった。9月は残暑の影響により衣料品全般が振るわず、前年のプロ野球優勝関連セールの反動もあって身の回り品なども不調となり、4か月連続で前年を下回っている。なお、日本百貨店協会によると、大阪地区の10月の売上高は、前年同月比で4.6%減となっている。

スーパーは、7月に衣料品の夏物商品が好調だったものの、猛暑やオリンピック開催、台風による来店客数の減などもあり、昨年11月以降11か月連続で前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

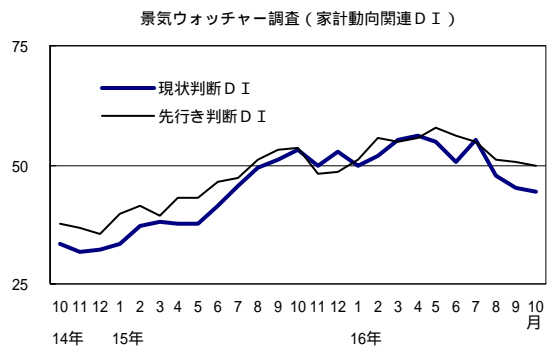
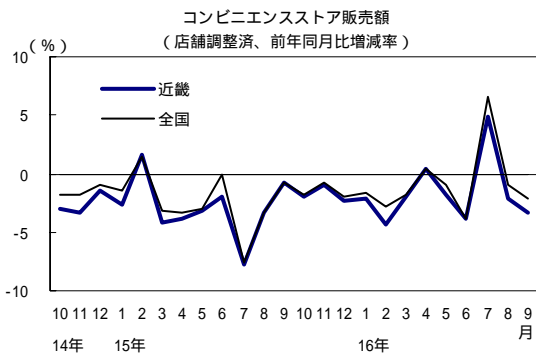
「夏物商戦のエアコン、オリンピック効果等の反動のほか、度重なる台風の上陸で天候も悪かったことから、売上がなかなか回復しない。また、単価の高い薄型テレビ、パソコンなどの単価が上がっていない(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.7	2.0	2.8	4.0
百貨店	1.7	0.8	0.2	3.3
スーパー	3.6	3.0	4.8	4.6
コンビニ	1.8	2.8	1.8	0.2
景気ウォッチャー	51.9	52.4	53.9	49.3

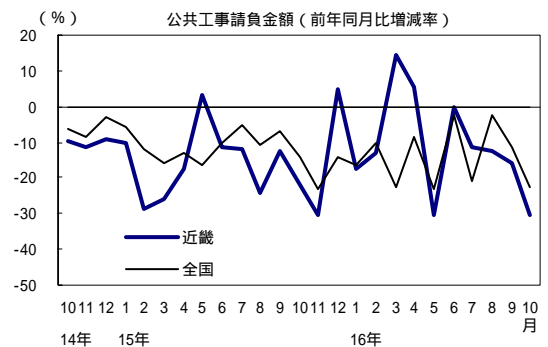
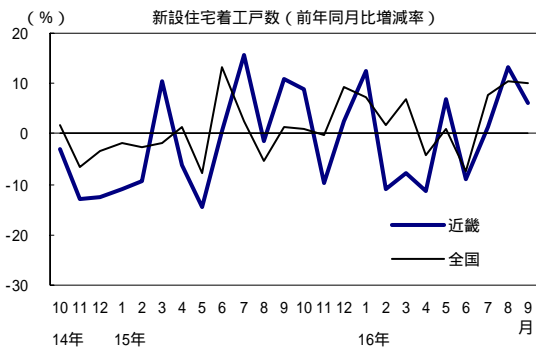
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、持家、分譲がいずれも前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

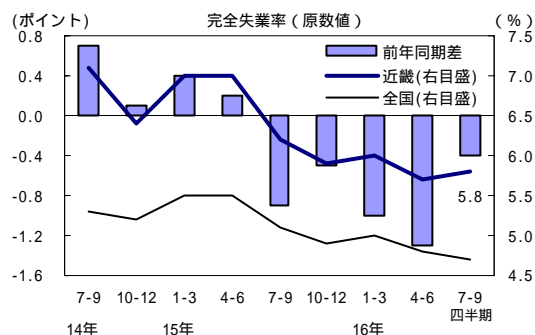
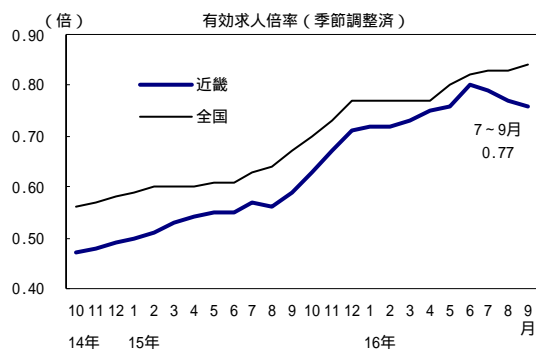


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

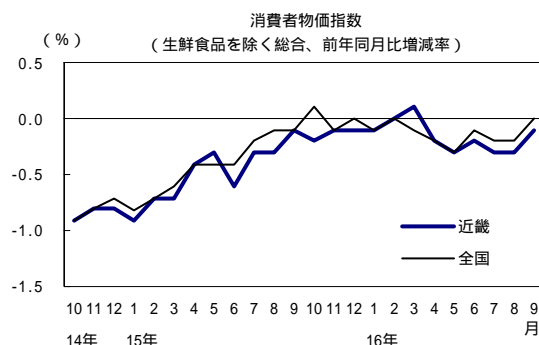
「特に製造業の請負業で、自動車、電機、電子、流通を中心に求人数が増えている(求人情報誌製作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「パートを含む新規求人数は、7月が2,895人、8月が3,533人、9月が3,457人と増加傾向にあるが、雇用形態別にみると期間工、契約社員などが多く、特に臨時雇用の求人は、7月が117人、8月が100人、9月が198人と増加している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	901	924	827	840	287
(前年比)	12.6	7.5	17.3	6.6	14.6
負債総額	6,362	6,071	2,799	3,796	4,014
(前年比)	10.6	22.2	54.2	50.3	7.3



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・度重なる台風で既存客への対応に追われ、十分な動きができていないため、今月は契約量が減少している(住宅販売会社)

<先行き>

・台風、中越地震の影響がどのように出るか未知数である(食料品製造業)

景気ウォッチャー調査(合計DI)

